

(1) わくわく科学ランドの取組の実際

校舎中央部に設置している「わくわく科学ランド」は、休み時間になると児童の笑い声であふれている。児童に人気があるのは「生き物飼育コーナー」と「体験コーナー」である。

「生き物飼育コーナー」では、地域の川や水辺に生息するホウネンエビやゲンゴロウ、ナマズなど16種類の生き物を飼育している。2年生が、毎日花壇からミミズを見つけ、ナマズに与えている。

「体験コーナー」では、イライラ棒（職員手作り）や、地域の方の手作りおもちゃで遊ぶなど、10分間の休み時間に科学に親しむことができている。



(2) サイエンスタイム（毎週金曜日の朝活動15分）の実際

サイエンスタイムは、理科委員会の児童を中心に企画運営している。異学年の縦割り班で編成し、活動を行っている。紙飛行機作りでは、よく飛ぶ折り方を調べてきた高学年児童が低学年児童に教えながら活動したり、「みんなの木」継続観察では、観察する視点を児童自ら設定したり、細かな気付きまで記録したりする姿が見られるようになった。



紙の角をきちんと合わせて折るといいよ。

(3) 科学研究物展示会へ向けた取組の実際

熊本県では、毎年11月に「科学研究物展示会」が開催されており、本校でも、全校あげて科学研究に取り組んでいる。児童の素朴な疑問や気付き、授業で学んだことの発展から研究のテーマを設定している。1年生は、「大きなシャボン玉を作ろう」。2年生は、「もしもし聞こえますか～糸電話～」。3年生は「植物のひみつを探れ」。4年生は、「すずしきアップ！プロペラの秘密」。5年生は、「身の回りにある円柱形の秘密」。6年生は、「土の中に潜む秘密」をテーマに研究に取り組んだ。シャボン玉作り挑戦した1年生は、「色をカラフルにできるのかな？」「いろいろな形にできるのかな？」など研究を進めながら次の疑問を見いだすことができていた。6年生は、土の種類と土壌生物の関係を調べながら、土の種類や深さによって温度に違いがあることに気付き、さらに研究を深めることができた。4年生と6年生の作品が県展に出品され、4年生はジュニア科学賞を6年生は最高賞の県知事賞を受賞した。

(4) 理科委員会の活動の実際

児童会活動の中に、理科委員会を設置して3年目になる。校舎中央部のわくわく科学ランドに「理科ニュース、理科クイズ」を掲示している（毎月1回）。理科ニュースや理科クイズは、稲田小学校に生息している生き物に関することや各学年で取り組んでいることを基に委員会の児童自ら調査し、制作している。

さらに、サイエンスタイムの企画運営や科学研究物展示会へ向けた取組を紹介している。

今年の自由研究のネタを紹介します。1年生は、割れないシャボン玉の研究をしてはどうでしょうか。シャボン液に酢などのいろいろな液体を入れて、試してみましよう。



(5) 学校内の理学的環境整備の考察

○理学的な環境が、児童の主体的で科学的な学びの素地を整えることに大変有効であった。生き物を愛護する心情や不思議さなどに会ったときの探究心、追究心など科学が好きな児童の姿を随所に感じることができた。【視点③】

○教科書には載っていない観察や実験にも取り組んでいるが、児童は、理科学習で学んだ知識を活かし、「・・・になるのは（結果）～だから（原因）だと思う。」「～を調べてみたい。」など活発に意見を出し、思考の幅を広げていくことができた。また、児童が「やりたい」と思ったことは、チャレンジできるように環境を整え、どんどん挑戦させた。【視点③】